

長崎縣に於ける甘藷栽培の実態

1. 福江島に於ける調査

中馬克己
長崎縣農業試験場

CHUMAN, K. Sweet Potato Planting in Nagasaki Prefecture
I. Investigation at Fukue Island

I. はしがき

本県に於ける甘藷の実態は未だ明らかにされていない点が多い。たまたま、本年、全国のいも類ブロッコ会議に於て、農業改良局研究部より、いも類の実態調査を依頼されたので、調査を実施することにした。調査の目的は、甘藷栽培の実態を明らかにして、今後の甘藷栽培上の問題点を見出そうとするにある。

先づ、本年は県内でも、畑の面積が多く、いも所として知られている福江島の調査を行つたので、不充分乍ら茲に報告致したい。

なお、取纏めに際し、御指導を仰いだ、月川場長並に種芸部主任立石技師に対し、深く謝意を表する。

II. 調査の方法

農業改良局研究部より提示された、いも類実態調査要綱に基づき調査した。

1. 調査対照農家の選定 (1). 本島に於ては、三井楽町、富江町、崎山村等を選定した。(2). 町村又は部落の農家を経営規模によつて、大、中、小に分類し、各階層から数戸づゝを選ぶ。本調査に於ては、大、2戸、中、4戸、小、2戸を主とした。

2. 調査の要領予め、普及員に対照農家を選定して貰い、調査票により聴取調査を行つた。

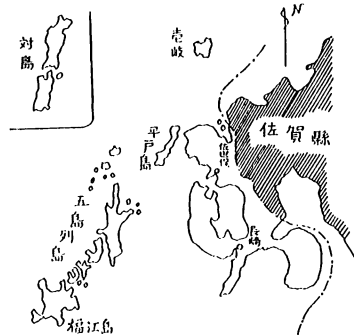
III. 調査結果並びに考察

1. 福江島の概要 本島は、五島列島の最西南端に位置し、長崎より直行55哩あつて、汽船で直行4時間半かゝる。年平均気温は17°C前後、雨量は年間約1900mmで温暖多雨の地帯に属する。地質は、玄武岩が主体をなし、本島に特徴を与えている。他の島々は、中生層が基幹をなして、概して急峻であつて、平

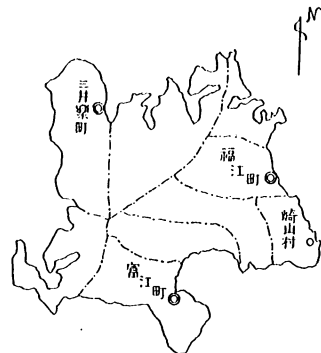
地は甚だしい。これに対し、本島は平坦な台地又は緩傾斜地が多く、農耕地も広く、県下に於ける最大の畑作地帯をなしている。農家1戸当の耕地面積を見れば、第1表の通りである。この様に、1戸当の耕地面積は県の平均を遙かに上まわり、全島平均8反以上となつている。特に三井楽、崎山等は1町歩以上となつている。

なお調査した3地区は夫々、次のような特色が見ら

第1図 (其の1) 長崎縣



(其の2) 福江島



第1表 農家1戸当の耕地面積 (反)

地区 田畑別	長崎 縣	福江島	三井樂 町	富江 町	崎山村
田	2.4	1.84	0.5	1.5	0.03
畑	3.6	6.46	10.2	6.0	10.8
計	6.0	8.33	10.7	7.5	10.83

昭和26年，長崎縣市町村要覽による。

れる。(第1図参照)，三井樂は甘藷に重点がおかれ，富江は，昭和22年頃より煙草に重点が移り，本島の煙草地帯として知られている。崎山は，本島の中心地である福江町に近いので，蔬菜栽培が他の地区より盛である。前2地区は安歩岩の重粘土壤，崎山は火山碎屑岩土壤地帯である。以下，この3地区を比較しつつ，本島の甘藷栽培の実態を述べる。

2. 甘藷栽培の実態

(1). 甘藷の作付率 甘藷の作付率は第2表の通りである。次表によると，三井樂，富江は県の平均値に

第3表 地区別の農家大小別による甘藷品種の作付面積 (反)

地区 農家大小別 面積及品種	三井樂町			富江町			崎山村		
	大農	中農	小農	大農	中農	小農	大農	中農	小農
甘藷の作付面積	22	8	4.2	11	8	2.4	12	4	2.4
沖繩 100号	17	2	2.5	6	6	1.4	5.5	1	1
農林 1号	·	·	·	·	·	·	2.5	1	·
農林 2号	5	5	1.4	5	2	·	·	·	·
護國	·	·	·	·	·	·	4	2	1.4
その他	·	1	0.3	·	·	·	·	·	·

崎山に若干温床利用の催芽移植の方法が行われている。冷床の作り方は，短冊型にせず，圃場又は自家用の菜園に，そのまま作畦，施肥，諸伏せ，覆土する方法で，然も1番苗のみ利用するので，苗床面積も広い。富江は他の2地区に比べ，面積がせまいが，種いもの密伏せによつてそれが補われている。(第4表参照) 苗床肥料は，堆肥の施用が少ないが，特に煙草耕作に重点のおかれている富江では殆んど用いていない。

植付は6月中旬が多い。崎山では早蒔用として5月中旬より植付ける農家もあつた。植付方は水平植，作畦は畜力が殆どであつた。施肥量は，煙草に主力が向いている富江が最も少く，他の地区は甘藷が主に考えられ，施肥量が多い。(第5表参照)しかし，施用される堆肥は殆ど野積堆肥で，しかも，三井樂地方では海砂を4～5割，崎山では1～2割混入し，肥効の著しく落ちたものである。

等しいが，崎山は蔬菜の作付のために約8%少い。

(2). 品種 地区別の農家大小別による甘藷品種の

第2表 甘藷の作付率

地区 項目	長崎縣	三井樂町	富江町	崎山村
畑面積	44215.4	1330.4	945.1	735.9
甘藷の作付面積	23230.0	766.2	505.1	329.5
甘藷作付率	52.6	52.4	53.2	44.8

作付面積の1例は次表の通りである。

3地区共に，沖繩100号が多い。次が農林2号である農林1号，護國諸は割合に少い。沖繩100号が多いのは，多収な点と，農林2号に比し黒斑病に稍々強い為貯蔵容易となつている点にあるようだ。護國が，崎山に多いのは，福江町への早出しに用いられているからである。地区別の農家大小別による品種作付面積の相違には，一定の傾向は見られない。

(3). 栽培の概要 育苗の方法は，大抵，冷床で，

第4表 育苗の概要

地区 項目	三井樂町	富江町	崎山村
反当苗床面積	15～20坪	7～8	15～20
苗及び 床の施肥 種類量	冷床 〔元肥〕堆肥約1× 〔硫酸〕若干 〔追肥〕硫酸， 下肥若干	冷床 〔元肥〕硫酸若干 〔追肥〕なし	冷床又は温床 〔元肥〕堆肥約1× 〔硫酸〕若干 〔追肥〕硫酸， 下肥若干
伏込 密度	尺 (1.0×1.5) ×(7×8)	尺 1.0×(5～6)	尺 1.0～1.5 ×(7×8)
苗の 長さ	1.1～1.5尺	1.0～2.0尺	1.2～1.5尺
苗の 節数	7～15節	8～16節	10～14節

第5表 本圃に於ける栽培の概要

地区	三井楽町	富江町	崎山村
項目			
植付期	6月中旬	6月中旬	5月中旬～6月中旬
施肥量	〔元肥〕堆肥 250～1,000 ㍊ 窒素質肥料 3～5 ㍊ 磷酸質肥料 1～7.5 ㍊ 加里質肥料 1～4 ㍊ 三和化成肥料 3～10 ㍊	〔元肥〕堆肥 なし 三和化成肥料 10 ㍊	〔元肥〕堆肥 300～500 ㍊ 海藻 480～600 ㍊ 窒素質肥料 10～20 ㍊ 磷酸質肥料 20～30 ㍊ 加里質肥料 10～15 ㍊ 三和化成肥料 20～25 ㍊
	〔追肥〕尿素 2 ㍊ 硫加 4 ㍊	〔追肥〕硫安 3～5 ㍊ 又は 硝安	〔追肥〕硫安 5 ㍊ 下肥(2回) 160 ㍊
栽植密度	(2.2～3 尺) × (1～1.5 尺)	(1.5～2 尺) × (1.2～1.4 尺)	(2.2～2.8 尺) × (1.1～1.3 尺)
收穫期	10月下旬～12月上旬	11月中旬～12月上旬	10月中～12月中旬
反当収量	510～800 ㍊	450～800 ㍊	600～1090 ㍊
貯藏法	屋内貯藏	屋内貯藏	屋内貯藏

栽植密度は富江が多い外、他は普通である。收穫は殆ど鋤によつて頻取られている。反当収量は施肥量の多い崎山が最も多い。貯藏の方法は、屋内貯藏で、毎年同一管が用いられている。このために黒斑病、軟腐病等による腐敗の多い事が予想されたが、本調査の範囲では、案外少かつた。

(4) 作付体形 麦→甘藷→休→大豆→休の如き2年3毛作が主体をなしているが、作付面積の少ない農家では、麦→甘藷→麦が多い。崎山では、蔬菜の導入が多くて集約度が高く、休閑があまり見られなかつた。

Ⅲ. む す び

以上の調査の結果、引き出される問題は次の諸点である。

(1) 品種 農林1号、2号等の普及奨励にもかかわらず、今なお、沖繩100号が多く栽培されているのは、多収なため、反当切干重に於て前2品種に優る点にあるらしいので、更に優良な品種の出現が切に望ましい。

(2) 植付期の引上げ 暖地に於ては、植付期の引上げによる増収の余地が多い事は度々指摘されているが本島に於てもその例にもれない。本島に於て植付の遅れる理由は、麦刈後から畦立て植付けまでの作業能率の悪い点と、重粘土壌地帯では入梅後でない、畦立てや植付の作業能率が甚しく悪く、活潑も悪いと云

う二つの点にある様だ。

前の場合は、崎山で自動耕耘機の使用により、作業能率を高め、6月上旬の植付を実行している農家もあつた。又、崎山地帯は火山砕屑岩土壌で、麦間挿苗による植付の引上げも実行に移し易い。しかし重粘土壌の三井楽、富江地帯では、単純に麦間挿苗は行い難い。全般に、大抵の農家が1回の採苗により、短期間に植付けている。このために、植付の遅延による減収がカバーされている。植付期の引上げは、この点も考えて検討しなければ、簡単に解決出来ないと思う。

(3) 海砂堆肥の検討 特に三井楽地帯では海砂を4～5割混入するが、生産費の低下を叫ばれている今日、海砂の運搬に多大の労力をかけた以上に、その効果が期待出来ないで、この施用に検討を要する。なお、海砂利用のため、アルカリ性となり、いも以外の作物の低収量の因をなしているとも云われているので、このためにも考慮を要する。

(4) 作付体形 2年3毛作中の休閑利用の研究がなされ、地力の維持増進及土壤侵蝕の軽減を計る必要がある。

参 考 文 献

南松浦郡(五島列島)農業実態調査報告書、長崎県農業試験場彙報、第1号。